



昭和2年7月7日創立

世田谷区立東大原小学校

同窓会報

平成20年度(2009.2)

発行所
世田谷区大原1-4-6
東大原小学校同窓会

発行人
岩下秀男

母校が結ぶ「縁」を大事にしましょう

会長(一二回生) 岩下秀男

袖振り合うも他生の縁、ということわざがあります。仏教の教えの中に出てきますが、人との出会いも単に偶然ということではなく、他生(たしよ、前世や来世のこと)の宿縁から生れるものという意味です。私は仏教信者とは程遠く、言うならば縁なき衆生の一人ですが、歳を取ったせいでしょうか、近頃はこのような言葉にも違和感がなくなりました。

さて考えて見ると、同じ学校に学んだということが、ここでいう「他生の縁」なのでしょう。だからお互いに特別な親近感を持って集まり、時に協力してボランティア活動もする。そしてその事を母校が結ぶ「縁」と考え大事にする、それが同窓会だと思えます。

とは言え、母校の歴史はすでに八十年を超え、卒業者の数も一万に達する大きなものとなりました。それだけに、この「縁」を大事にしていくことも、実は容易なことではありません。

会則にあるとおり、卒業生は全て同窓会員です。全員がこの同窓会を自分たちの会と考えて、会を維持・発展させていく必要があるということです。

同期や同じ組の集まりはそれぞれ活発に行われているようですから、それらの活動を是非、同窓会全体に繋げて、母校が結ぶ「縁」を、さらに大きな力に高めていきたいものです。



岩下会長

二〇年総会の報告

平成二十年年度の総会は、平成二十年四月二十日(日)午後三時より母校の体育館において開催され、広瀬眞一幹事(三十四回生)の司会により、次の通り議事が進められました。

第一部では岩下会長(十二回生)の挨拶、久末校長先生の挨拶に次いで、新入会員の代表として竹川龍雅さん(八十一回生)と同じく大江慧さん(八十一回生)の元気な挨拶によって議事に入りました。議事の詳細については六ページをご覧ください。

来賓の挨拶は新しく代わられた、河野素子PTA会長にお願いし、閉会の挨拶は大塚副会長(二十三回生)が行いました。

第二部では例年の通り、関根昌子さんのピアノでPTAコーラス部の方々と合唱をしたり、校歌斉唱をしました。

そして全員での記念撮影の後、新入会員を主とした卓球や輪投げ大会を行い、楽しく終わりました。

懇親会は神谷理事(三十三回生)の司会で缶ビールで乾杯、喉をうるおし、旧交を暖めて、滞りなく閉会しました。



新入会員に語りかける岩下会長

総 会 風 景



河野PTA会長ごあいさつ



校長先生のお話し



卓球大会



新入会員代表、竹川君、大江さん



輪投げ大会



PTAコーラス

全 体 風 景



新入会員と還暦会員



集合写真

寄稿

みな様のおかげ

(十三回生) 宮川 英子

昭和三十五年、母校の青年教師だった私は、東大原小学校同窓会再興に、加藤・土田・畠山・岸田諸先輩に大変、お世話になった。五十周年記念「岩石園」の建設は、蛭田様のご厚意だった。

私の実家(瀬戸)は五月の空襲で罹災したが、子ども三人は北沢で生まれ育つて北沢小・中学校で学ばせて頂き、成人した。

私は、今、八十歳を過ぎて、町内会、北沢高砂会等でお世話になっている。先月、親睦会で岸田義明様(元北沢郵便局長)にお会いした。九十歳を過ぎてなお地域に多大のご尽力を賜っている。その笑顔が美しい。

北沢の町にそしてそこに住む皆様のおかげで、私は「本当に幸せだなあ」と感謝している。

(「ミミ」誌きたざわ寄稿より転載させて頂きました。)

喜寿の祝い

(一七回生) 山本 倫久

平成二十年の同期会総会を三月二七日に「喜寿の祝い」として日比谷松本楼で開催しました。当日は暖かくて園内の桜は満開に近く、華やかな気分に含まれていました。

十七回生(昭和十九年卒業)は平成六年に同期会「ゆずり葉会」を結成し、毎年三月に総会を開くとともに、「旅行会」「新年会」などの会合を重ねてきました。

今回、会員が喜寿を迎えたことから、総会を「喜寿の祝い」と銘打って、日比谷公園内の由緒あるレストラン「松本楼」で開催することとしました。

ちなみに「松本楼」は、明治三六年に日比谷公園の開園と同時に開業し、孫文の日本亡命を支援し、また各種の重要な政治的会合が行われてきたところでした。嬉しいことに松本楼の現社長小坂氏と我がグループの片山・高嶋君が立教大学で同期とのご縁があり、ご無理をおねがいしました。

卒業生二六九名の内、消息の判明している者は約九十名、その内会合に出て来る者は約五十名で、通常の会合では毎回二十名乃至三十名が出席しています。今回は特別なお祝いの会でしたので、三十九名(同伴者三名を含む)という大勢のメンバーが集まり賑やかな会となりました。

宮澤会長から会員が喜寿を迎えたことのお祝いが述べられ、笹間副会長の発声で益々の健康を祈って乾杯をして会が始まりました。

久しぶりに出席した人達から近況報告を聞きました。体調に多少の不都合があっても、社会への奉仕や自身の楽しみに、積極的に活動している方が多いのが印象的でした。



また特筆すべきことは、これまで会の運営に尽力してくれた片山義郎君がガンとの闘病で入院中のところ、妹さんが付き添って車椅子で出席してくれたことです。楽しく皆と歓談することができました。なお彼は一か月後に亡くなりましたが、有意義な時間であったと思われまます。誠に残念ですが、冥福を祈ります。格調高いフランス料理のフルコースを味わい、窓の外には桜の花が咲いて、最高の雰囲気の中で歓談が続き、充実した思い出深い総会でした。最後に「仰げば尊し」と「東大原国民学校校歌(朝夕仰ぐ)」を歌い、再会を約して散会しました。

ありがとう・東大原小学校

(三十三回生) 益井 純子

山田洋次監督の学校シリーズを見ると東大原を思い出す。私は絵が大好きで放課後、美術室で番条先生に風景や生物の描き方を教えていただき毎日が楽しくて仕方なかった。アジア競技大会記念展で私の描いた大相撲のペン画が入賞し、朝礼で校長先生から表彰され益々絵に精進した。私は転校生だったが新井先生に大変お世話になった。今でも読書が好きなのは小学生の頃、少年少女世界文学全集を読破したからだと思う。先生はよく漢字の小テストをして下さり校庭でも遊んで下さった。私の父が庭で丹精して咲かせたバラを新聞紙にくるんで学校に持って行くと、すぐ教卓に飾ってくれ嬉しかった。ピースの大輪のバラは甘い香りを一日中放つ

ていた。東大原は築山のヒマラヤ杉、体育館そばの柳、塀ぞいの桜など自然の豊かな学校だ。ゆつたりのおんぴりと将来の夢を追いながら美術に没頭した楽しい小学生時代だった。

下北沢駅前食品市場に育って

昭和三七年卒業 関根純一

私は下北沢駅前食品市場、通称「駅前マーケット」で育った。その頃のことをすこし書いてみたい。昭和二十四年に私が生まれた翌年両親が下北沢駅前食品市場に雑貨店を構えてからそこに住まい育ち、育成幼稚園、東大原小学校に通った。

子供のころの思い出は下北沢駅前マーケットからはじまる。戦後の闇市を起源とするマーケットは棟割の簡易な木造二階建の集合体、どこがどうつながっているのか子供にとってはたいそう複雑な世界であった。人が入れないような裏筋・露地があり、一部は平屋でアーケード替わりの半透明の波板が懸かっていた。そして今もほぼそのままの原型を保っている。

食品市場の名のとおりに青果店、精肉店、鮮魚店、総菜屋、お茶屋など食料品が主体であったが米軍放出品の衣料品や舶来のチョコレートやコーヒー豆、洋モクなども売っていた。記憶では鰻屋、揚げ物屋、中華そば屋、甘味屋、豆屋、味噌屋、薬局、洋品店、履物屋などユニークでバラエティに富んだ店が混沌を醸しだしながら並んでいた。どこに何を出店しても自由だった。いつも活気に溢れ、夕方近くなると狭い路地に買

い物客がひしめくように行き交いにぎわった。店の前は八百屋さんが並び、斜向かいではお爺さんが日がな一日壊れた傘を修理していた。その隣は樽話めの味噌を量り売りしていた。我が家の隣は洋品店と菓子屋であった。線路側には夕方から開くおでん屋、赤提灯も並んで夜はいつも賑わっていた。この不思議な雑然とした混沌が子供にとつてはじつにとらえがたく興味尽きない世界であった。

商店主はみな比較的若く、一部は店舗の二階に住み、その子供たちが遊び仲間となった。マーケットがすなわち子供達の住みかであり遊び場であり、つきあいの場であった。物心がつく前は市場にあったパチンコ屋へ行つては景品交換の窓口へ黙つて手を出し、おねえさんからだでキラメルやチョコレートをもらっていたそうだ。手を出せばキラメルがもらえらると思つていたとはなんとしあわせな子供だったろうか。

物心がつてからの記憶はもっぱら駄菓子屋である。マーケットだけでなく街からも子供達が駄菓子屋に集まった。駄菓子屋の小さな空間はおもちゃとお菓子で溢れ、まさに宝の山であった。メンコがありビー玉があり火薬テープのピストルがあった。タバコに似せた菓子をくわえて大人のまねもした。小遣いをはたいてラムネを飲んだり真つ赤なタレのついたイカの足を食べながら戦艦武蔵の工作キットやメンコに描かれる時代劇のヒーローの話をしていた。店の売り上げをくすねて駄菓子を買ひ、あとで親に見つかりこつてりと絞られたこともあった。小遣いがなくとも友達と駄菓子屋でいくらかでも時間をつぶすことができた。

そんな場所がほんの三軒隣にあり、路地でつながったマーケットという不思議空間がその廻りを取り囲むようにあるのだから子供の私にとつてはたまらない。遊びたければマーケットの路地だろうと裏筋だろうとトタン屋根の上だろうとどこかまわらず入り込むことができた。友達も店の二階にも簡単に上がり込んで窓や物干しからトタン屋根の上に出ることができたのである。身軽な子供達は屋根づたいに行き来し冒険を繰り返した。錆の浮き出たおぼつかないトタン屋根の上を四つ足で伝うのはスリル満点。子供は野良猫の世界を生きていたのかも知れない。禁忌をやぶり危険を共有すること、そこから生まれる子どもの連帯感みたいなものがあつた。遊びがすぎて揚げ物屋の食品陳列ケースを倒壊させてしまったこともあつた。さすがに全員こつぴどく叱られた。

しかしマーケットの大人たちはおおむね子供をあたたかく見守つてくれていた気がする。路地で遊ぶなというようなことは一切言われなかった。冬に大雪が降ると線路の向うのいじめっ子グループと対抗して雪合戦を繰り返した。今はオオゼキのビルがあるところだ。その裏手も含めた資材置場の原っぱはしばらく子どもの戦場であつた。子供なりの社会があり、つきあひがあつた。年上遊びを教えて小さな子もいっしょに行動し遊んだのである。グループ同士のけんかや対立もあつたが年長のリーダーが適当に収拾してくれていた。私と妹がいじめっ子グループに捕らわれたときなどは一人で助けに来てくれたこともあつた。

マーケットには季節毎に風物詩があった。正月には獅子舞が町中の商店を巡りにやってくる。マーケットにも毎年やってきた。節分には天狗祭りである。

当時は狭いマーケットの中まで長い天狗行列が錫杖を鳴らしながら練り歩いたものだ。盆には道了尊で縁日を楽しんだ。キュウリやナスで馬や牛をつくって路地で迎え火などしていた八百屋さん。縁日に浴衣と線香花火はつき物であった。祭りや縁日が特別たのしかったのはもちろんだが日常的にはいつもお祭りのような気分であった。人でいっぱいマーケットで日々様々な消費の現場に接していたのだから当然かもしれない。とくに年末のクリスマス前から大晦日・正月にかけての街の賑わいと高揚感、こころ浮き浮きした日々はわすれられない。今からは想像できないが当時の夕方のマーケットは前へ進めないほど混み合っていて子供の私でも通り抜けるのは容易ではなかった。あれはまさにお祭りの賑わいと同じであった。

マーケットを抜け、街へ出れば毎日通う銭湯と季節感があった。そこで会う友達との交流、行き帰りの夜の皓々とした街灯り、いつも寄り道する父親のお気に入りの店。天好の絶品餃子、とんかつ太郎のロースカツ、焼鳥屋など、子供心にただただ楽しい日々であった。世の中はこんな世界がずっとこのようにして続いているにちがいないと思っ込んでいた。下北沢の街を、駅前マーケットを、家とも庭とも思つて暮らしていたとは言えないだろうか。友達を誘つては毎日のように遊びまわっていた。仲間の家へ行き「○○ちゃん 遊びましょ」と一声、そのまま空き地か公園へ一目散で

遊びに行き夕方遅くまで帰らなかつた。近くは道了尊、もつぱらたのしい縁日でおなじみであった。ふだんの日は階段の前に紙芝居がやってくる。子ども達はその時間になると大勢集まって階段に群れをなした。後に街頭テレビが設置され興味はそちらへ移つたが紙芝居と違つて駄菓子がないのは一向に味気なかつた。遠くは北沢八幡、根津山まで行く。根津山まで行くのに信号は環七の一回だけである。北沢八幡までは信号らしい信号を渡つた覚えもない。下北沢界隈はそれほど子供にとつて天国であり安全な街だつたのだ。

危険を感じることなく子供がひとり幼稚園や小学校へ通い、ひとりで銭湯へ行き、ひとりでラーメンを食べに行くことができた。親も商売で忙しく、たいした心配もせずに子供を一人で出かせせる。

大人たちがある程度遠くから見守つていたのである。小学三年生のときに友達と下北沢映画劇場で子供が見てはいけない映画の鑑賞に及んだことがあつた。あとでしっかり親に情報が伝わりきつく絞られたことがある。見つかるはずもないとおもつていたが大人たちはどこかで見ていたのである。あれは関根商店の坊主だと。そんな街であり、そんな時代であつた。

計画では三年後には住民や利用者の意思に反した駅前再開発が行われ、大きな交通広場と自動車道路が入り込んで来る。どこにもあるような交通広場、世界の潮流に反していまだに行われている自動車交通主体の道路計画事業。いずれは大資本が入りこみ、肥満したビルが立ち並び、下北沢独特のユニークな個店の集積が失われ、顔

の见えない薄すつぺらな街になつてしまふだろう。私が育つた頃の「子供が自由に遊びまわるユートピア」は今や遠い夢物語になりつつある。

二〇〇八年十一月十一日

私の少年時代

(三十四回生) 廣瀬 眞 一

昭和三十年四月に東大原小学校に入學しました。終戦後十年を経過しましたが、世の中はまだ貧しい時代でした。しかも我が家は母一人です。二人の子どもを育てていたので大変な生活でした。ですが、不思議なことに今思うと、大変さという感覚は少しも残らず、心満たされた出来事ばかりが思い出されます。

少年時代のよき思い出の第一は、何といつても東大原小学校での生活です。特に四年生からはクラス替えがなく担任も三年間宮川英子先生で、とてもまとまりのある楽しいクラスでした。

宮川先生はまだお若く、いつも笑顔ではりきつておられました。勉強になるときびきびと指導をされ、勉強の苦手な私は、下を向きながら真面目に取り組んでいました。ただ、私は算数が大好きで、「計算ができた人から屋上で遊んでいいですよ。」というときだけはどんどん終わらせて一、二番で遊びに行つたことをまだ覚えてます。厳しさの中に子どものやる気を引き出すおらかさも交えた素敵な先生でした。友達ともよく遊びました。休み時間には高鉄棒で、蹴上がり、飛行機飛び、大車輪などを豆が破れるほど繰り返す(七頁へ続く)

平成20年 定例総会議事内容

平成20年 総会議事

議案第1号

平成19年度事業報告

平成19	4月6日	入学式・・・加藤会長・大村理事出席
	4月6日	会計監査
	4月23日	理事打ち合せ
	5月11日	PTAと80周年記念事業の打ち合せ
	5月13日	定例総会
	6月2日	運動会・・・理事多数出席
	6月8日	評議員会・・・新組織について
	9月8日	評議員会・・・80周年記念事業関係
	10月19日	理事打合せ
	11月2日	展覧会・・・理事多数出席
	11月18日	評議員会・・・80周年記念事業関係
	11月24日	80周年記念式典・祝賀会・「故きを温ねて」出版
平成20	1月18日	学校外部評価委員会・・・大村理事出席
	1月28日	評議員会・・・会則改正等
	2月14日	学校外部評価委員会・・・大村理事出席
	2月27日	評議員会・・・会則改正等
	3月10日	評議員会・・・会則改正等
	3月23日	会報・総会案内配布
	3月25日	卒業式・・・岩下会長・大村理事出席

議案第2号

平成19年度一般会計決算報告

収入の部			支出の部		
	予算額	決算額		予算額	決算額
会費収入	20,000	72,000	総会費	60,000	34,422
新会員入会金	10,000	16,800	写真・文具等活動費	40,000	209,167
懇親会費	50,000	30,000	通信費	50,000	51,240
名簿売上	10,000	8,500	会報費	80,000	91,245
利息	100	1,736	振替口座用紙代金		3,600
雑収入	127,530	218,000	振替負担費用		10,100
			雑支出	5,000	0
当年度合計	217,630	347,036	当年度合計	235,000	399,774
前期からの繰越金	132,370	132,370	次年度繰越金	115,000	79,632
総計	350,000	479,406	総計	350,000	479,406

同窓会の保持する資産・・・ノートブックパソコン1台 プリンター1台

平成19年度特別会計決算報告

収入の部			支出の部		
	決算額			決算額	
積立累計	300,000		80周年記念誌費用		526,050
寄付金	1,862,000		80周年記念陶芸釜費用		705,550
			組織強化活動費への積立		930,400
合計	2,162,000		合計		2,162,000

平成19年度 監査報告

前期決算書類を慎重に監査した結果、
いずれも適正且つ妥当なものと認めます。

平成20年4月1日

監事

磯 正格

重山 まこと

議案第3号

東大原小学校同窓会会則の一部改正 及び東大原小学校同窓会細則の制定について

1 東大原小学校同窓会会則の一部改正（案）

- 1) 第2条第2項を次のとおり改める。
2 賛助会員 評議員会で推せんし、総会の承認を得た者
- 2) 第14条を次のとおり改める。
第14条 正会員は入会の際、入会金として金100円を納める。
- 3) 第15条を次のとおり改める。
第15条 正会員の会費は、年額金1000円とする。
(但し会費の徴収方法、期日は別に定める)
- 4) (付則) この会則は平成20年4月20日から発効する。

2 東大原小学校同窓会細則（案）

第1条 東大原小学校同窓会会則（以下会則という。）
第15条の規定により、会費の徴収方法を次のとおり定める。

- 1 正会員は毎年度の会費を、前年度末までに納めるものとする。
ただし、前年度末において卒業8年を経過していない正会員については、当該年度の会費を徴収しない。

第2条 正会員は入会金を卒業時に納めるものとする。

第3条 会則第6条に定める役員に欠員が生じたときは、
評議員会において補欠者を選任することができる。
ただし次期総会に報告しなければならない。

付則 この細則は、平成20年4月20日から発効する。

議案第4号

平成20年度事業計画案

会則第4条、5条に基づき会員相互の親睦と母校の発展に
寄与するため次の事業を行う。

- 1 母校の教育環境向上の為、学校の要望に基づき行事に積極的に参画し協力する。
- 2 本会の発展の為、母校及び会員相互の情報連絡強化の一環として、会報を発行する。またホームページを充実させ、活用を図る。
- 3 本会組織の強化を図る為、会員名簿の充実を努める。
会員の現住所把握に努め、原本の修正を常時行い、新規会員の搭載を行う。
- 4 同窓会員が保持する貴重な資料の収集を行い、学校内に設けたコーナーで保存に努める。
- 5 母校発展の為、PTA等とも協力し、また会員からの提案を積極的に取り上げて必要な事業を行う。

議案第5号

平成20年度収支予算案

収入の部			支出の部		
	予算額	前年実績		予算額	決算額
前期繰越金	79,632	132,370	総会費	35,000	34,422
会費収入	400,000	72,000	写真・文具等活動費	100,000	209,167
会費収入	10,000	16,800	通信費	200,000	51,240
懇親会費	30,000	30,000	会報費	150,000	91,245
名簿売上	5,000	8,500	振替口座用紙代		3,600
利息	1,000	1,736	振替負担費用		10,100
雑収入(寄付)	100,000	218,000	次年度繰越金	140,632	79,632
合計	625,632	479,406	合計	625,632	479,406

(五頁からの続き)

返し競い合ったものです。また、放課後になると暗くなるまで校庭でソフトボールに興じました。今の子どもたちの遊びの中には見る事のできない光景です。

よき時代、よき先生、よき仲間たちでした。二つ目の思い出として、下北沢のオデオン座近くにある世田谷教会のことがあげられます。

毎朝六時からミサを受け、その後すいとんをいただき登校しました。すいとんの美味しきは格別でしたが早起きはとにかく大変でした。特に寒い冬は起きるのが辛かったです。母親が敬虔なクリスチャンだったので、侍者として行かざるを得なかったのです。ですが今思うと、そこで毎日耳にする神父様の教えから、小さいながらも少しずつ理解することができ、心の豊かさを大きく育まれました。人に優しくすること、うそをつかないこと、人の役に立つことなどは、今も事あるごとに頭をよぎります。

三つ目の思い出は、やはり下北沢の町です。根津山公園では我が庭のようによく遊びました。近くの神社で開かれたお祭りも楽しみました。友達の家にお邪魔して一緒に遊んだり勉強してもらったこと、夏は蝉取りに明け暮れたことなど、思い出は尽きないほどあり、今も鮮明に覚えています。心温かい人々の住むすてきな町でした。

私の少年時代は、物質面では決して豊かな生活ではありませんでした。でもそれをマイナスに思わせない何かがありました。それは、学校、先生、友達、教会、町、そしてそこに住む人々との出会いでした。このような出会いがあったからこそ今の自分が存在します。出会いに感謝しています。

同窓会ニュース

評議委員会の活動について

平成二〇年度の評議委員会を総会前に一回、総会後に現在まで六回開催しました。会場は主に北沢タウンホール十一階研修室を利用しました。審議内容の主な点を要約して報告します。

平成二〇年四月十日(木)

四月二〇日定例総会における第一部の議事進行・議題及び配布資料、第二部と終了後の懇親会の行事等の内容につき確認した。

平成二〇年五月八日

会則に定める役員補充を細則第3条に基づき次のとおり新たに選任した。

また本年度の運営にあたり次のように役員分担を部会ごとに決めた。

業務の種類	担当役員
会議部会	吉田、加藤、山縣、福士、重山、神谷
渉外部会	杉田、宮川、大村、大塚、神谷、上原
会員部会	梶川、宮川、大村、福士、重山、上原
会計部会	野地、大月、小清水
会報部会	大村、磯、下条、臼井、杉田、神谷、益井、上原
事業部会	大塚、野地、臼井、渡辺、杉田、中村、向原、斉藤
ホームページ部会	臼井、宮川、神谷、上原

前回総会后、新たに参加した役員

臼井良雄(27) 渡辺翠(27) 中村清子(33)
益井純子(33) 向原政弘(33) 斉藤耕一(34)

平成二〇年六月一日(日)

同窓会を発展させるため、参加会員の増加及び会費納入の促進を図る文書(以下「会費納入促進文書」という。)を関係書類を沿え六〇回生までの会

員に送付することとし、送付業務を会員担当に依頼した。

平成二〇年七月七日(月)

会費納入促進文書は二二六一通発送した。うち不明による戻りは五八九通であった。この戻り分については、再調査し、継続し促進に努めることにした。またホームページの活用を図るため新しく部会を設け、宮川、臼井、神谷、上原の各役員に依頼した。

平成二〇年九月二一日(日)

会費納入促進文書の戻り分について、再度全員に返信用はがきを入れた手紙を送ることにした。また母校に置いてある同窓会の書庫(体育館演壇床下)の活用等につき検討したが、適当な利用方法、設置場所が求められず、当分現状のままとするにとした。また二宮金次郎像(一部損傷)が母校の倉庫に保管されているが、その活用方法等につき、関係方面の意見を聴くこととした。

平成二〇年十一月二日(日)

再度の手紙送付で判明したのは僅か一五名であったが、これからも個人的知り合いを通じ、会員の拡充につとめることとした。

来年度の総会に向け、会の進行等をお願いすることになる三五回生の皆さんにお願いする手紙(往復はがき)を出すことにした。また平成二十年度会報発行について検討した。

平成二一年一月二二日(月祝日)

三五回生の皆さんに発送した三六通の往復はがきの戻りは二二名であり、総会に出席する方三名、協力してよい方一名であった。平成二〇年度会報発行について検討した。

会報については、原稿がほぼ集まり二月中には発送出来るという報告があった。

最後に来年度の役員改選にあたり、役員的位置づけ及び選出の手順等について検討した。(以上平成二一年一月二〇日現在)

平成二十一年度
同窓会定例総会のご案内

平成二十一年度の定例総会は
来る四月十九日(日)午後三時よ
り母校体育館において開催い
たします。
二〇年度を振り返り、また二
十一年度の活動方針を、皆様
に語りつつ決めていきたいと思
います。

なお当日は、長く日本経済新
聞社の経済記者や編集に携わ
り、その後、株式会社市場経済
研究所を立ち上げ現在その主
幹をなさっている二十七回生
の岡本匡房さんに講演をして
いただきます。経済ということ
を中学一年生の新入会員にも
解りやすく語っていただき、現
在の日本を襲っている経済危
機についても分りやすくお話し
いただく予定です。

各年度の同窓生お誘い合わせ
の上ご参加ください。特に本年
度は恒例のとおり本年還暦の
同窓生、三十五回生が中心に
推進していただきますので三
十五回生は特に振るってご参
加下さい。なお当日年会費千
円を頂きます。
また懇親会出席の成人会員の
方には、別途千円を頂きます。

平成20年度に会費及び御寄付を頂いた方々(12月末迄)

02 岸田 義明	13 澤原 昌	16 篠山 利生	21 石崎 富子	27 楠山 哲四郎	29 河村 郁子	33 益井 純子
05 小泉 義男	13 吉田 太一	16 篠原 淑子	21 高橋 みどり	27 石橋 次郎	29 重山 まこと	33 樋口 美穂子
06 和田 廣幸	13 大井 收	16 永田 弘子	21 四竈 公高	27 高橋 修	29 江口 眞子	33 加藤 和子
07 中田 太郎	13 宮川 英子	17 森川 啓介	22 小林 公高	27 白井 良雄	29 浅川 英雄	34 西岡 万里子
08 大戸 恵美子	13 藤平 賀寿子	17 大村 昭夫	22 豊田 宏	27 桑田 喜美子	29 松岡 一子	34 今泉 伸夫
10 三宅 喜代子	13 今永 淑子	17 下條 由之	22 西川 武彦	27 豊田 融	30 浜野 巖	34 漆畑 光一
11 朝倉 啓	13 山本 恒子	17 曾我 優	22 張 富士夫	27 永野 勝一	30 渡辺 怜子	34 齋藤 耕一
11 篠山 茂行	13 福島 昭子	17 板橋 毅	22 陶山 美晴	27 大竹 英一	31 藤村 純子	34 廣瀬 眞一
11 嶋田 新一	13 野坂 靖子	17 中村 若葉	22 西岡 巖	27 岡本 匡房	32 中崎 久之	34 小山田 忠
11 白石 智恵子	13 高野 潔子	17 内野 典子	23 大塚 弘章	27 多則 央	32 中川 雅治	34 大岡 雅子
11 安田 久子	13 土肥 京子	17 多田 美智子	23 安井 幹雄	27 杉浦 保夫	32 増田 桂子	34 谷平 三恵子
11 船木 良子	14 加藤 玲子	18 菊田 精一郎	23 南澤 明子	27 尾村 彰彦	32 志賀 幸雄	35 市川 愛子
11 青井 文子	14 大月 文江	18 酒匂 芳郎	24 野地 勝彰	27 香中 敬子	32 小清水 和子	36 福井 節子
11 角田 瑤子	14 小川 和彦	18 土屋 貴幹	24 福土 京子	27 杉山 朝子	32 小森 勢津子	37 石山 恭市
12 岩下 秀男	15 穴戸 健一郎	18 小平 健男	24 島田 勝美	27 渡辺 翠	32 富原 秀子	38 清田 幸宏
12 吉田 赴	15 今井 兼介	18 保科 宏義	25 千々波 天晨	27 町田 恭子	32 鈴木 保子	48 渡辺 明男
12 美濃部 昭雄	15 齊藤 健史	18 山縣 武夫	25 栗原 秀男	27 佐藤 修	32 小林 富子	50 山岡 隆正
12 平田 健蔵	15 大矢 正雄	18 伊藤 達雄	25 岩崎 敏之	27 富安 好恵	33 堀江 敬子	58 上原 謙介
12 渡辺 一男	15 渋谷 定重	18 堀江 照彦	26 竹内 延男	27 高橋 雄一	33 森野 豊	66 益井 絵美
12 西脇 潤	15 磯 正格	21 蓑田 清	26 菅沼 浩一郎	27 海老 秀子	33 梶川 照則	久末 節子
12 大内 榮子	15 渡辺 二葉	21 伊庭 保	26 赤津 信男	28 加藤 敏子	33 鈴木 晋一	河野 素子
12 遠藤 郁夫	15 佐々木 ミヨ子	21 鈴木 福子	26 上神谷 俊秋	29 杉田 泰之	33 中村 清子	大原北町町会
13 加賀田 光雄	15 尾崎 喜重	21 志賀 芙規子	26 陰 英夫	29 高野 孟	33 中嶋 はるみ	
13 安斎 勝太郎	15 和田 鈴子	21 春日 ふじの	26 三橋 直樹	29 福土 木棉子	33 神谷 良男	
13 高見沢 裕	16 伊達 洋一	21 小山 加代子	26 谷田 公子	29 藤森 和子	33 飯田 朗	

(氏名の左の数字は卒業回数)

◎ 同窓会への連絡、問い合わせ、送金等の方法について

同窓会の事務所の所在地は、会則では「東大原小学校」となっております。しかし現状では、学校内で事務を行うことが学校管理上の理由で出来ません。会員各位にはこの点ご不便をお掛けしています。

もちろん、郵便物を「世田谷区大原1-4-6 東大原小学校同窓会」宛にお送りいただくことはできます。ただし、急ぎのご用件については、お知り合いの理事等に電話・FAXされるようお願いいたします(右記の同窓会ホームページにも連絡先が出ています)。

なお、送金についてはすべて、郵便振替を利用して下さい。
(振替口座は 00130-4-403259 東大原小学校同窓会 です。)

記念誌のご注文も、郵便振替でその旨記入のうえ送金して下さい。

◎ 同窓会のホームページ

同窓会では、ホームページを公開しています。アドレスは下記の通りです。

<http://www.higashiohara.jp/>

検索サイトを経由して「東大原小学校同窓会」で開くこともできます。

末尾に、記入欄「皆さんの声」も用意してあります。会員同士の情報交流等に役立つと思います。大いに利用して下さい。

お世話に 参事伊東昇治さん(1回)、理事田畑ルナさん(11回)、理事土岐高史さん(16回)は任
なりました: 期途中でご逝去されました。生前の同窓会活動への貢献に感謝するとともに謹んで
ご冥福をお祈りいたします。

編集後記: 1月12日の評議委員会で、会報の内容が、去年4月に行われた総会の報告中心で、
もっと現状の同窓会活動を掲載すべきではないかという意見が出ました。それを受けて
「評議委員会の活動について」のページで具体的に直近の活動状況を書きました。